映画『シバ　縄文犬のゆめ』プレスリリース

いせフィルム
TEL：03-3406-9455　FAX：03-3406-9460　メール：ise-film@rio.odn.ne.jp

作品概要

シバ
縄文犬のゆめ

縄文の「いのち」を生きるシバ犬と、
犬を愛する人々が織りなす愛情物語。
まるでファンタジーのようなヒューマンドキュメンタリー。

柴犬の祖先は、
日本犬のなかで最も古くから
我が国に生息していたといわれる。

この映画は、
“縄文犬（じょうもんけん）”とよばれることもある
柴犬の「純化」と「保存」に取り組んできた
天然記念物 柴犬保存会のリーダー照井光夫さんと、
その仲間たちを3年間にわたって記録した
ドキュメンタリーである。

“縄文犬”とよばれるようになった背景にも触れながら、
柴犬に惚れ込んださまざまな人々が、
犬とともに生きる姿を追った愛情物語。

ヒューマンドキュメンタリー映画で
数々の賞を受賞している監督・伊勢真一が描く本作は、
柴犬を通じて、命あるものの姿を丁寧に描いた
ヒューマニティーあふれる動物映画である。
柴犬愛好者にかぎらず、
多くの人々に感動を与えるにちがいない。

出演者

シバ
縄文犬のゆめ

照井　光夫（てるい・みつお）
天然記念物 柴犬保存会 会長

「天然記念物　柴犬保存会」は、縄文の昔から日本にいた犬を理想として純化し、保存する目的のもとに、1959年に中城龍雄（1904～1993）により創設された。同会の会長をつとめる照井光夫氏は、秋田県田沢湖で30頭の犬と共に暮らしている。

柴犬たち

照井光夫　孝子
　ゲン　ダイ　タロウ　ジロウ　リキ
　シオン　ほか

後藤明彦　恵美子
　空(ソラ)　チーたん　ほか

石田健一
　茶瑪(チャメ)　椎飛(チビ)

二木清
　チビ

宮崎学
　ホタル

八田博子
　朝(トモ)　幸(コウ)　都子(トコ)

小竹良一
　エリー

柳沢和子
　ジョー

髙梨榮子
　七七(ナナ)

齊藤武治　イヨ子
　親(チカ)

髙橋学

「天然記念物柴犬保存会」の皆さん

監督コメント ――――――――

人間の言葉にしか耳をかさなくなったような現代人にとって、
生きもの達のコトバ、自然のコトバに耳を澄ますことこそ、
今、必要なように思う。

伊勢 真一（映画『シバ 縄文犬のゆめ』監督）

何本かの作品を完成させて、この頃思うのは、
私は、永い永い一本の未完の映画を撮り続けているのかもしれない、ということ。何をテーマにした、どおいう長編大作かと言えば…それが分かれば世話はない。わけがわからないまま、ただただ撮り続けているのだ。
『シバ ―縄文犬のゆめ―』というタイトルの映画が完成した。永い永い一本の映画に、新たなワンシーンが繋がった、ということだろうか。

「やってみるか」と腰を上げたのは2011年の3月、あの東日本大震災の直後。行かないわけにはいかないと思い、「傍（かたわら）」撮影のため、東北の被災地へ向かうロケを繰り返すのと平行して、縄文犬と呼ばれることもある「シバ」と人々との交流を、秋田を中心に撮り続けた。そして二年半。もうひとつの「いのち」を描いたドキュメンタリー映画が完成したのだ。

柴犬と言えば、タヌキ顔でCMにも登場する可愛いらしい人気者の犬と思われがちだが、私の映画の主人公は、キツネ顔・オオカミ顔の世間的には馴染みの薄い少数派。お世辞にもフォトジェニックとは言えない「シバ」に想い入れ、撮影しているうちに、その魅力にすっかり取りつかれてしまった。

「ウー」「ワン！」「ワンワン！」
人間の言葉ではない哭き声で、表情で、行動で、何事かを語りかけようとする「シバ」を、ただただ撮ること…それは、言葉に頼り過ぎるドキュメンタリーにしばられがちな私を、映像で物語を紡ぐ、という原点に立ち返らせてくれる時間でもあった。
「シバ」のコトバに耳を澄ますこと。
人間の言葉にしか耳をかさなくなったような現代人にとって、生きもの達のコトバ、自然のコトバに耳を澄ますことこそ、今、必要なように思う。

「シバ」がクランクインしたちょうどその時に起きた「3.11」は、地震、津波、原発の恐怖を通じて、そのことを私達に気づかせてくれた筈だ。
「3.11」が語りかけるメッセージと、
「シバ」のコトバに耳を澄ますことには、
通じるものがある。私にはそう思えるのだ。

「シバ」愛好者達に色々聞いてみた。
誰もが口を揃えて、「とにかく私のことを愛してくれる」「言葉だけでなく、心もワカッテくれる」「どんな敵とも勇敢に斗う」「強く、そして優しい」「絶対に裏切らない」と、ベタ褒めだった。
「犬の面倒を見ている、というより、犬が私達を見守ってくれているようだ」とも言っていた。

ヒトは「シバ」を必要としている。
「生きもの達」を必要とし、
「自然」を必要としているように。
ヒトは「シバや、生きもの達や、自然」に見守られ、共に生きているのだ。

縄文の記憶を魂の奥深くに秘めている「シバ」が、じっと私達を見据え、「ウー」「ワン！」「ワンワン！！」と吠え続けている。
「シバ」たちの記憶に触れ、
私達自身の記憶を呼び覚ます物語に、
思いを巡らせてもらえたら嬉しい。

永い永い一本の映画は、どこにたどり着くのだろう。
答えの無い問いを投げかけながら、
わけがわからないままに、私の映画創りは続く…。

映画に寄せられた感想 ―

とてもよかった。
シバ、生命に感動。

（70代・女性）

伊勢監督の「大切なものは目にみえない」という言葉に、以前どこかで聞いた「社会に必要なものは、たいてい手間がかかって面倒臭いもの」という言葉を思い出しました。
自然も動植物も純粋です。正直です。
人もその一部、
仲間だと自覚するべきだと思います。

（50代・女性）

昔、柴犬を飼っていたことがあったので、
とにかく観ているだけで幸せでした。
縄文犬とは初めて知りましたが、
いつも時代に乗り切れない自分が、
柴犬が今でも一番好きな理由が
解った気がします。

（女性）

犬の長い長い縄文の記憶。野性的な美しさ。
いのちのバトン、本当に興味深く拝見しました。
柴犬を愛し、守り育てる照井さんの表情、
生き方、素晴らしかったです。
美しく心に響きました。　（女性）

大切なのは命の記憶なんだ。
何を記憶し伝えて行くか、
問われている様に思いました。
いい映画でした。　（20代・男性）

子どもの頃から、「いつか飼うならシバ犬！」と
決めていましたが、この映画を観て、
ほんとうのシバ犬の魅力に開眼しました。
縄文犬の血をひくシバと一緒に居ると、
人間性が問われるような、覚悟のような？
すごい体験が味わえそうですね。
全国に“縄文犬のゆめ”が広がりますように。
私も周りの人にその魅力を伝えていきます。
照井さん、シバ犬に似ていらっしゃいますが、
俳優さんのようにかっこいいですね！
伊勢監督のお人柄にも心を打たれました。
他の作品を観てみたいです。

（女性）

シバの子犬がかわいくてかわいくて、
また、足の悪くなった「ソラ」のパパさんの
優しさ、ママさんの“寝顔が宝”という言葉に、
涙が出てきました。ありがとうございました。

（50代・女性）

人と人の関係では忘れてしまいがちな、
生命へのいたわりが、
人と犬の関係では素直に出ていた。

（30代・男性）

スタッフ

映画『シバ 縄文犬のゆめ』
2013年／カラー／99分／ハイビジョン

出演　―　柴犬たち　照井光夫・孝子・ゲン・
ダイ・タロウ・ジロウ・リキ・シオン ほか
後藤明彦・恵美子・空(ソラ)・チーたん ほか
石田健一・茶瑪(チャメ)・椎飛(チビ)
二木清・チビ　宮崎学・ホタル
八田博子・朝(トモ)・幸(コウ)・都子(トコ)
小竹良一・エリー　柳沢和子・ジョー
高梨榮子・七七(ナナ)
齊藤武治・イヨ子・親(チカ)　高橋学
「天然記念物柴犬保存会」の皆さん
撮影　―　田辺司
録音・音響構成　―　渡辺丈彦
照明　―　工藤和雄
録音　―　世良隆浩 永峯康弘
編集技術　―　尾尻弘一
整音助手　―　井上久美子
音楽　―　横内丙午
チェロ演奏　―　白神あき絵
主題曲　―　「ゆりかご」
題字　―　後藤琢也
宣伝デザイン　―　森岡寛貴(ジオングラフィック)
制作・上映デスク　―　加藤郁美 増馬則子
協力　―　天然記念物柴犬保存会 松野どうぶつ病院
東北歴史博物館　MOCプロジェクト
特別協力　―　中城龍雄　八田幸次郎　八田アサ
三澤清芳
企画　―　八田博子
監修　―　照井光夫
製作協力　―　ヒポコミュニケーションズ　一隅社
製作　―　いせフィルム
演出　―　伊勢真一

演出・伊勢 真一（いせ・しんいち）

映像作家

1949年東京生まれ。
『奈緒ちゃん』『えんとこ』から『風のかたち』『大丈夫。』などまで、長年にわたりヒューマンドキュメンタリー映画を中心に製作。様々な人の日常を温かい眼差しでほのぼのと映し出す作風で知られる。近作は『傍（かたわら）～3月11日からの旅～』（12）、『小屋番 涸沢ヒュッテの四季』（13）、『シバ 縄文犬のゆめ』（13）など。
2013年「日本映画ペンクラブ功労賞」受賞。
翌年2014年には「シネマ夢倶楽部賞」を受賞。

上映について ――――――

伊勢真一監督のヒューマンドキュメンタリー映画は、
自主製作の処女作『奈緒ちゃん』（1995年）以来、
20余年にわたり全国各地の様々な地域で、
主に自主上映会によって観られてきました。
“映画は観客と出会い、はじめて映画になる……”
という考えをモットーに、上映活動に取り組んでいます。

映画『シバ 縄文犬のゆめ』も、
自主上映を募り、上映の輪を広げたいと考えています。

映画『シバ 縄文犬のゆめ』
2013年／カラー／99分／ハイビジョン
16：9　HDV・DVカム・ブルーレイ・DVD

《お問合せ先》

いせフィルム
http://www.isefilm.com/
TEL：03-3406-9455　／　FAX：03-3406-9460
E-MAIL：ise-film@rio.odn.ne.jp